



## チャンスをつかむとは

工学部長 さか坂 ぐち口 ひろ裕 き樹

新入生のみなさん、入学おめでとう！ 皆さんの新たな出発に際して、いくつかの想いを私自身の経験を踏まえてお伝えしたいと思います。

多くのみなさんはこれまで大学入試に合格するために勉強に勤しんできたことと思います。これからは自分のなりたい人物像を頭に描いて、そうなるためにはどのような知識、技術および教養が必要かを自分自身で調べ考えて、受け身ではなく自らそれらを身につけるべく勉強することを勧めたいと思います。私たち教員は、そうやって自らを高めようと精進する学生さんたちを全力で支援することでしょう。

「私にはチャンスが来ない、チャンスに恵まれない」との嘆きをよく耳にします。本当にそうなのでしょうか？ 私はそうは思いません。チャンスは誰にでも平等に巡ってくるし、つかむことができるのです。ではどうしたらよいのでしょうか？ まず、「チャンス」をチャンスと認識することができなければ何も始まりません。そのためには「知識」が必要です。豊富な知識があれば、それがチャンスであることに気づくことができます。つぎに、チャンスとわかってもそれをつかむための「手段や方法論」を持っていなければ、指をくわえてみているだけになってしまいます。すでに存在しているならそれらを使えばよいでしょうが、無い場合には生み出さなければなりません。それは知識を「知恵」に変えることで可能となります。当然ながら知識が多い方がより優れた知恵となるでしょう。「手段や方法論」を持ったとしても失敗を恐れて消極的になったり、タイミングを外したりするのはチャンスをもものにすることはできません。ですから最後には、チャンスをつかみに行く「勇気」が必要になります。決断力と言ってもよいかもしれません。その際に大事なのは、「私には無理だ、できない」との思い込み（マインドセット）をしないことです。マインドセットを変えることによって人間は大きく成長しますので、みなさんもそのように努めてみてください。

失敗を恐れずに挑戦してみてください。若いうちに沢山の失敗を経験してください。自らを振り返ってみると、人生の教訓のほとんどが失敗から学んだことであることに気づきます。「七転び八起き」、「人間万事塞翁が馬」等々、故事ことわざには真実味がありますね。何度転んでも最後に起き上れば良いのです。「継続」も大事です。「天才とは、ただ、努力の継続をできる人のことをいう」、「千里の道も一歩より」や「ローマは一日にして成らず」の故事が教示する通りだと思います。

最後にもう一言。失敗をしたときや困難に直面したときに、私はいつもこうつぶやきます。

Take it easy! (なんとかなるさ)

やってみてください、きっと気が楽になりますよ。

鳥取大学における学生生活を通じて、みなさんが大きく成長することを心より祈願しています。